

大河内地区 歴史探訪



1 茶臼山

永禄12年(1569)に織田信長軍が大河内城攻めの時、5万の兵で本陣を敷いた山で、信長が腰かけたと云われる石が地元の人によって保存されている。

2 茶屋(桂瀬・大河内)

和歌山街道で茶店や旅籠が軒を連ねていた所で、桂瀬町では、地名が桂瀬茶屋として残っている。大河内町では今も屋号として【あさひや】がある。ほんの最近まで【河内屋】と云う宿屋があった。

3 西方寺

山号が微笑山と云うように、御本尊の阿弥陀如来の歯が唇に現れていることから微笑しているように見える。これを歯吹如来と云い、日本で三体しかない珍しい仏像である。

4 山村遺跡群(ぼんど池~高畑地区)

坂東古墳、山村古墳の2基と、焼野、坂東、大垣外、松狭間、中切、西山の遺跡が点在し、今でも須恵器、土師器の片が出土している。

5 大河内城跡(県指定史跡)

この城は、応永年間(1400年代)伊勢国司北畠満雅により築城され、代々【大河内御所】と称した。永禄12年(1569)8月28日から50日余りにおよぶ織田軍と激戦の末に和睦したが、天正3年(1575)信長の二男信雄により解体されている。

6 西蓮寺

元の西蓮寺は、現在の大河内公民館の付近にあり、永禄12年(1569)に織田軍の大河内城攻めの時に焼失、元禄元年(1688)大洪水で流失、安永2年(1773)の大洪水で被害を受け、現在の場所へ移り、文政元年(1818)に本堂を再建している。本堂に安置してある聖観音菩薩立像(松阪市指定文化財)は平安時代の作と云われている。

7 大師道 道標

根木峠を通り丹生の大師へお参りする道と和歌山街道の分岐点に二基建っている。一基には文化14年の銘が見られる。この道標の横に大日碑と六字名号碑も並んで建っている。

8 薬師堂

鎌倉時代の建築物と思われる手斧造りの最も古い薬師堂である。元の御本尊の薬師如来は、日光菩薩、月光菩薩の脇侍に十二神将も安置されていた。平安時代の作と云われている。

9 吉祥寺と宝篋印塔

境内に羅漢堂と呼ばれている小堂があり、そこに祀られている聖観音は、平安時代の初期(1000年代)の作で、大河内地区内にある古仏像の中でも一番古いものとされている。安置されている五百羅漢も江戸時代の作であるが、この地区ではこの御堂でしか見ることができない。境内にある宝篋印塔は歴代住職の墓地にあり、この地区では、この一基だけで珍しい。銘文によると文化5年(1808)と刻まれ、また吉祥寺の誉上人と見えることから、同寺中興の祖の墓と思われる。

10 脇谷城跡

阪内川と勢津川との中間で標高160米の尾根筋にあり、大河内城の出城的なものであった。

11 養徳寺

元は、矢津町の崎谷に応永10年(1403)北畠満雅が建立したもので、北畠由緒のお寺であったが永禄12年(1569)織田軍の大河内城攻めの時、敵兵の足場にされるのを恐れ、北畠具教自ら火を放って焼いたと伝えられる。この時、織田の重臣富田俊房が、本尊ならびに脇谷を火中から取り出し、現在の地に移建して養徳寺の寺号を継いでいる。

12 学校みち

昭和の初め頃から昭和45年まで勢津町から中矢津へ出る路で勢津地区の児童の通学路であった。

13 忍坊寺跡

勢津町の堀坂山系の一部にこの寺があり、相当大きな寺と思われる礎石が残っている。この寺から発する仏光の輝きが遠く平尾の海辺まで照らされ、平尾の漁師は不漁で困るとしばしば訴え出たという伝説が残っている。現在、大河内西蓮寺に安置してある聖観音の像は、忍坊寺にあった仏像だったと云われている。

14 徳本さん

辻原町の墓地の入口に祀ってある六字名号で、この名号碑に【徳本】と銘があり、地元では徳本さんと呼んでいる。又並んで建っている地藏菩薩は、自然石に舟型、浮石彫りでその大きさも等身大である。地藏さんは、左手に錫杖、右手に宝珠を持っておられ、持物が左右逆になっているのが珍しい。

15 大日道標

和歌山街道から阪内川を渡ってたげ街道への分岐点にあり、この道標に右あららぎ、多気、左紀州と又、裏には右まつさか、左多気、あららぎと銘文にあるように本街道とたげ道の分岐の要所であった。自然石に彫ってある大日如来は金剛界大日である。

16 白衣観音

江戸時代の文久年間(1860)に辻原で勢力のあった豪族の幼い女の子が亡くなり、その供養に建てられた観音菩薩像で、白衣とは純粋な子どもの姿を現した観音と云われている。昔はたげ道と矢津、勢津道の分岐点にあたる場所にあった。同じ祠に祀られている六面幢六地藏はずっと古い時代のものである。

17 ガイコツ峠

天正4年(1576)織田軍勢が、坂内城を攻めた時、この地で敵味方双方に多数の死者が出て、その骸骨が残っていたので、ガイコツ峠と呼んだ。阪内にあった大河内第二尋常小学校へ勢津地区の児童が昭和の初め頃まで通った通学路でもあった。

18 坂内城跡

標高約300米の山で地元では天守と呼んでいる所で、応永年間(1400)初代城主雅俊より7代城主具義まで約170年続いた北畠一族の城であった。

19 坂内不動院

坂内城主坂内家の菩提所で華嚴寺という寺があったが坂内家滅亡の時、火災により廃絶した。その奥の院として祀っていたのが現在の不動院で、現在も7代の城主の墓が祀られている。この不動院の御本尊(秘佛)は不動明王で坂内家が吉野朝廷より下賜されたと伝えられている。又、境内に延命地蔵が祀られており、今でも男子が生まれたら白、女子は赤い前掛けをする習わしがある。

北畠具教軍
7千騎

大河内城合戦図

織田信長軍
5万騎

茶臼山

